

# イヤイヤ期

## ～対応のポイント～



1歳半を過ぎると、なんでも「イヤー!」「自分で!」とだだをこねて大人を困らせることが増えてくるかもしれません。しかし、これは自己主張の1つで、発達ステップとして大切なことです。

～まずは、発達のステップを理解しよう～

### 1歳半～3歳前後の子どもの姿

★個人差もありますが、2歳前後になると、「ワンワンきた」「〇〇ちょうだい」など二語文が出て自分の要求を表現できるようになります。しかし、「待つ」「がまん」は難しく、自分が最優先です。相手の気持ちを推し量ることはできません。



★2歳を過ぎる頃には、覚えた言葉を使って、大人の反応を見たり、言葉遊びとして楽しんだりすることがあります。自分の気持ちを言葉で表現することができないため、「イヤ」で訴えます。また、できないことをやりたがり、人の反応を見たくて嫌がることをわざとすることもあります。

★3歳になると、「〇〇するまで待ってね」ということが理解できるようになり、「イヤ」という場面が少なくなってきます。順番が待てるようになり、集団生活をする準備ができます。時間の感覚を理解できるのは4歳過ぎです。



## ★イヤイヤ期への対応のポイント★

危険なものは子どもの目に触れないように  
しまっておきます。  
必要以上に「ダメ」と言わないで済む安全な  
環境を作りましょう。

「いやだったね」「悔しかったね」など  
子どもの気持ちを代弁しましょう。  
叱るだけでは子どもは不安になること